

令和6年度学校プール再編懇談会

日時：令和6年(2024年)10月30日(水) 14:00～15:30

場所：SPRING 熊本花畑町7階会議室

○議事

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶
- 3 関係者紹介
- 4 懇談会趣旨説明
- 5 議事「学校プール再編について」

○出席者

熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子
熊本市PTA協議会代表	植木小学校PTA会長	赤尾 由美
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	大賀 恵美
熊本市立小学校校長代表	杉上小学校長	古賀 久美子
実践校	飽田南小学校長	赤星 和明
実践校	田底小学校長	益永 一幸
実践校	芳野小学校長	西釜 勝久
実践校	吉松小学校長	村上 利美
実践校	城北小学校長	石原 将
モデル事業校	植木小学校教頭	出田 智子
事業委託業者	マリーンスイミングクラブかもと	小代 孝尚
事業委託業者	菊南スイミングクラブ	須崎 賢治
モデル事業候補校	武蔵小学校長	池田 誠
熊本市教育委員会事務局	総括審議員兼教育総務部長	中村 順浩
熊本市教育委員会事務局	学校教育部長	福田 衣都子
熊本市教育委員会事務局学校施設課	首席審議員兼学校施設課長	内村 智
熊本市教育委員会事務局指導課	課長	松岡 美幸
熊本市教育委員会事務局指導課	副課長	上坂 恭士
熊本市教育委員会事務局指導課	教育審議員	中山 晋
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	竹元 浩人
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	吉田 明日香

事務局	学校プールは学校施設の中でも利用期間が年間約2か月と短く、建設費用も高い施設である。また、プールの対応年数は約50年と言われ、今後更新時期を迎える学校が増えてくる。建て替え費用と児童の泳力向上、教員の負担軽減、学校プール施設の維持管理費用削減などの効果を総合的に考え、老朽化が著しい学校は、建て替えを行わず民間スイミングクラブやプール共用、公的施設の利用などで水泳授業が可能か、令和4年度よりモデル事業を実施している。 学校プール再編事業が始まった当時の試算について、学校プールの維持管理には、水道・薬品代、ろ過機保守点検代、機械の点検、維持経費などがかかる。このプール維持管理費を積算すると、1校あたり計算して、毎年平均約125万円かかっている。また、プールを再建した場合、建築費などに1億5千万円かかり、耐用年数50年で割ると、1年あたり300万円となる。年間の維持管理費を含めるとコストは年約425万円かかる。 次に、民間スイミングを使用した場合の費用は、年間1人約9千円である。この金額は先進校、都市から情報を得て設定した。インストラクター代、バス代を含む。一人あたり9千円とした場合、先ほど示した年間約425万円に対し、472名以下の人数であれば、プールを建て替えるより、民間スイミングクラブを活用した方が費用を抑えられると試算している。 そこで、①築50年以上またはプールの老朽化が著しいこと、②児童数約470名以下であること、③移動時間約10分以内であること、以上3つの条件を満たす学校をモデル校選定の条件としていた。 この条件の下、令和4年度は、飽田南小と田底小の2校でモデル事業を行い、令和5年度は、4年度のモデル校の2校に加え、城北小、吉松小、芳野小の3校を拡充し、計5校で実施した。なお、5校のうち、芳野小は、芳野中のプールの2レーンを底上げ工事し、中学校とプールを共用し、授業には、スイミングスクールからインストラクターを派遣している。 令和4年度より開始したこの学校プール再編事業では、民間のスイミングクラブと連携し、アンケートや懇談会等で多くの意見をいただきながら、効果検証をしてきた。その中で、これまで、効果としては、児童の安全管理及び泳力の向上、天候に左右されない環境（暑さ寒さ、衛生面）の良さ、施設・水質管理、空き時間の確保などが教員の負担軽減につながり、水、薬品、機械、備品・消耗品などのコスト削減などもある。また課題としては、日程や指導内容の調整が必要、遅刻、早退者の対応、継続が困難になった場合の対応などの意見があった。 昨年度の学校プール再編懇談会では、今後の方向性について、まずは、令和6年度以降も選定条件を満たす小学校を、モデル校として効果検証を行うこと、モデル校として効果が検証されたら、学校、児童、保護者、地域からの意見を踏まえ、実践校として継続をしていくこと、モデル校の状況に応じて、1年～2年の効果検証の期間を設け、例えば、スイミングクラブとの連携が困難であった場合、公的施設での事業検証を行うなど、モデル校の期間を一律に設定するのではなく、各学校の状況に応じて随時実践校にしていくことを説明した。
-----	---

司会 植木小 出田教頭	以上のことを踏まえ、令和6年度の学校プール再編事業は、実践校5校、モデル校1校の計6校で実施した。 今年度からモデル校として実施している植木小および菊南スイミングクラブより実施状況を報告していただく。 スライドを使って説明。写真は2年生の授業の様子である。インストラクターがグループ別についている。本校は、10月30日現在、全校児童が333人。通常学級が12学級、1～6年生までがすべて2学級ずつ。特別支援学級が2学級である。6年生は67人、1年生が39人と学年間で人数の差があるが、学年ごとに水泳の授業を受けた。 令和6年度の水泳授業開始までの流れについて、昨年度1学期に菊南スイミングクラブの視察を行った。2学期に学校プール再編懇談会に参加し、説明を受けた。令和6年度に入ってメンバーも変わったので、4月に入ってまず保護者への通知を行った。職員会議とPTA会議でお知らせをした。城北小と同じ菊南スイミングクラブを使うということで、打ち合わせを行い、今年度は植木小学校が1学期に、城北小学校が2学期に行うと決定した。5月10日に菊南スイミングクラブに体育主任と打ち合わせに行った。5月から6月に授業計画、指導と評価の計画を作成した。実際に水泳の学習は6月から始めた。6月4日から7月16日まで水泳授業を行った。 スライドに資料1として水泳の授業計画を示している。スイミングクラブと打ち合わせを行い、それぞれの学年で授業を行い、また特別支援学級は児童数が少ない1年生と一緒にすることとした。最初に水泳の授業をするにあたって打ち合わせを重ねる中で、バスが2台から3台に台数が変わることもあり、体育主任が適宜訂正をしながら活動を進めた。実際に水泳学習を進める中で、職員会議で提案した内容について計画に修正を加えながらTeams等で共有を図った。学校ではない場所での活動となるので、昨年度実施されていた城北小のマニュアルを参考にしながら、本校で水泳学習用に作成したマニュアルをベースに作成し直した。実際に連絡セット、救急対応セットを担当が必ず籠に入れてマニュアルと一緒に持っていく形をとった。 指導と評価の計画については、昨年度から実施されている城北小の計画を参考に各学年で作成し、それに沿って実施した。右側の写真が実際の授業の様子で、赤で囲んでいるのが本校の職員でプールサイドから見守りをしている。プールの中にいる赤丸がインストラクターである。指導は、各学年2人から5人のインストラクターに行ってもらった。本校が2学級ずつなので、担任の1人がプールに入って指導の補助を行い、1人がプールサイドで評価と全体観察を行った。 民間スイミングクラブを利用した水泳授業後のアンケート結果を紹介する。まず、児童の感想について、95%の児童が「とても楽しかった」「楽しかった」と答えている。また、上達したかどうかについては、児童の88%が「とても上達した」「上達した」と答えている。上級生は若干低くなっているが、「とても上達した」と「上達した」を足すとどの学年も変わらないくらい上達を実感しているようだ。保護者に対しても「楽しそうだったか」「上達したか」というアンケートをとったが、94%が「とても楽しそうだった」「楽しそうだった」と答えており、83%が「とても上達した」「上達した」
-------------------------------	--

菊南スイミング 須崎 氏	と答えている。保護者にもプールを見に来ていただくよう紹介したところ、たくさんの方が来られ、以前は児童たちが学校のプールでガタガタ震えながらやっていたこともあったが、今回はニコニコして安心して授業に取り組んでいるのを見て、「安心しました」と言っておられた。教職員に関しては、100%が「とても楽しそうだった」「とても上達した」「上達した」と答えている。泳力調査は、前年と比べて5～10m未満の児童の割合が減少し、100m以上の割合が増えた。泳力的にも力を付けた児童たちが多かった。 児童のアンケートの中には、「スイミングスクールに行きたくなった」と言い、実際に見学に行った児童もいたようだ。また、「コーチの方がとても褒めてくださるので嬉しかった」と言っている児童たちも多くいた。3・4年生の中には「雷が鳴っても大丈夫だった」、「シャワーが冷たくないの安心して入れる」と言っており、5・6年生は、「実際に上達するためのポイントを教えていただいて嬉しかった」と答えていた。保護者の方も「レベルごとにインストラクターがついてくださるので安心した」、「天候に左右されず、プールの準備をしたのに入れなかったということが今年はなくてよかった」と言われていた。教職員は、「専門的な指導をしていただいたのがありがたかった」、「毎朝のプールの準備や点検等などの時間が軽減されて良かった」という声があった。授業に関する打ち合わせは増えたが、全体的なこと（プール管理など）を含め大きな負担軽減になったということだった。 メリットとしては、児童が楽しんでいて上達を実感していたことがある。また、天気に左右されず快適な水温で授業ができたこと、多くの目で児童たちを見守ることができたこと、グループごとにきめ細かな指導をしていただいたこと、プールの管理などの業務の軽減などがある。 デメリットとして、「授業は2コマで行うので授業回数が少なくなる。もう少しやりたい。」という声があった。また、児童によってはインストラクターに慣れるまでに時間がかかることもあった。また、バス移動の安全面の心配もあった。児童を送った後、スクールの送迎に向かうということで、運転手の方が分単位で動かれていたため、児童がゆっくりしていたり、遅れていたりしてしまうと時間の余裕がなくなってしまうことがあったと聞いた。そういう点は学校側でも早めに対応をしていかないといけないと感じた。また、緊急時の対応について、教員が迎えに行くのか保護者が行くのか、すぐに行けないときはどのようにするのか等をもう少し具体的に詰めていかないといけないと感じた。スイミングクラブには色々な設備が整ってはいたが、今年に対応することはなかったが、学校としてもきちんと準備をしておかないといけないと反省したところである。小学校としては、児童が楽しく学習ができたことが非常にありがたいと感じた。 まずアンケートでは、結果が非常に良かったのでほっとしている。授業をするにあたっては、授業時間が成人の当クラブの会員さんのコマと被っていて、昨年は1校だったので成人の会員さんにお休みしてもらったり、時間をずらしてもらったりしていたが、今年度は2校に増えるということで説明したところ、会員の方から「もうちょっと私たちにも泳ぐ時間を与えてもらえないだろうか」と相談を受けた。午前中は毎日小学校の授業を入れさせてもらい、午後は火曜日と木曜日だけしか入れることができず、7月後半は夏休みになってしまうので、小学校の担当の先生にはタイトなスケジュールの中で調整をもらった。たまたま1年生が少なかったのも、特別支援学級も
-------------------------	---

事務局	一緒に行うということで何とかできたが、人数が多かったらスケジュール的に厳しかったと思う。 城北小学校は、9月10月の2か月間しっかりできたのでスケジュール的には大丈夫だった。植木小は保護者の皆さんが多数見学に来られた。その後問い合わせがあったり、入会もあったりしたので、スイミングクラブ的にも助かっている。最後に児童に手紙を書いてもらい、インストラクターも癒され「やってよかったな」と感じた。あとは、バスが植木小の後、そのまま他の地域に迎えに行く形をとらざるをえず、時間的に厳しかった日もあった。最初は初めてということで、児童も緊張していたようだが、後半はコーチにも慣れてしっかり指導もできたと思う。 水泳授業後のアンケート結果について、今年度行った6校中5校に答えてもらった。現在行っている城北小には、この後アンケートをとってもらう予定である。児童823名、保護者417名、教職員51名の10月15日時点のアンケートになる。 「スイミングクラブでの水泳授業は楽しかったですか」という質問に対し、児童約95%が楽しかったと答え、95%以上の保護者とすべての教職員が「楽しそうにしていた」と答えている。次に泳ぎの上達については、「泳ぎが上手になったと思いますか」という問いに対し、約84%の児童が「思う」「とても思う」と答え、約86%の保護者、そしてすべての教職員が「上手になったと思う」と答えている。 本事業の継続については、「来年度以降もスイミングクラブでの水泳授業をしたいと思いますか」という問いに対し、約86%の児童が「したい」と答え、約96%の保護者とすべての教職員が「してほしい」と答えている。「どちらでもいい」という答えも含めて非常に高くなっている。 教職員の負担軽減については、「これまでの学校での水泳授業に比べ負担軽減になりましたか」という問いに対し、すべての教職員が「とてもなった」「なった」と答えている。以上のようにアンケートの結果、今年度も本事業について児童、保護者、教職員から肯定的な意見が多く見られた。 「本事業で良かったこと、困ったこと、その他の感想」の自由記述で成果としてあげられるものを紹介する。児童からは、「学校でのプールよりも長い時間泳げたこと、天候を気にせず泳げたことが良かった。」「自分のレベルにあったコースで教えてもらえるので、安心して授業を受けることができた。」などの声があった。保護者からは、「環境の良さで、プールへの苦手意識が薄れたようだ。」「きめ細やかに指導してもらえ、安全面に関しても見守りの人数が多いため安心できる。」教職員からは、「専門的かつ丁寧な指導、少人数グループ、個別の支援等により、児童の成長や泳力向上に繋がるとともに、自分自身が、指示や補助の仕方など指導方法も学べる。」「児童が泳ぐ時間を十分に確保しつつ、安全確保もしっかりとできているので、教員側としてもとても助かっている。」「プールの管理をしなくてよいこと、専門的な指導が受けられること、安全面での負担が減ること、天候に左右されず授業を行うことができること等、とても助かっている。」という意見が出ている。
-----	---

PTA 協議会 赤尾 氏	課題としては、「少しでも自由時間、遊ぶ時間を設けるともっと楽しめる。（児童）」「回数を増やしてほしい。（児童・保護者）」、「回数が少ない分、見学したときの影響が大きい。（保護者）」、「バスでの移動が心配。（事故やバス酔い、置き去りなど）」という声もあった。また、水深が学校のプールより深く感じるので監視体制が心配という声もあった。 令和7年度以降の方向性については、表の左から小学校名、プールの築年数、実施場所、児童数、移動時間、再編実施案を記載している。令和7年度は、今年度の6校、武蔵小学校を加え7校で実施していくことを検討しているところである。 ～意見交換・質疑応答～ 個々の泳力に合わせてインストラクターも教えてくれるので、上達が早く感じた。ぜひ来年もお願いしたい。児童が「プールが冷たくていやだ。」と言うことがなくてよかった。また、インストラクターや先生方の大人の目が多いので安心感があった。場所が変わることで気分転換にもなったと思う。今回は先生方がたくさんいて教えてもらったこと、「温水プールで寒くなかったので天国だった。」「きれいで安心だからよかった。」という声があった。去年は50mしか泳げなかった子が200m泳げるようになったという児童もいた。室内なので虫がいなくてよかったそうだ。ただ、中には「送迎の時間があるので時間がなくて楽しめなかった。」「学校のプールが良かった。」という意見もあった。
田底小 益永校長	保護者の中には、回数が6回だったので、もっと増やしてほしいという意見があった。確かに今までの水泳の授業は大体10時間くらいしていたので、今回は2時間取り扱いということで、12時間扱いとなり、これが最大回数かとも思うが、もし7回になった場合、契約上可能かどうか教えてほしい。
事務局	一律に7回とか8回に増やすのは難しいと思われるが、学校の規模や状況によって変えることは考えられる。学校では天気が悪くてできないこともあったので、実際に泳ぐ回数は10回できることはなかなかないと思う。また、1回の授業でも着替え等に時間がかかるので、現在の2時間取り扱いの方が実際に泳ぐ時間が長いとも考えられる。回数に関する保護者への説明も今後必要になってくる。
飽田南小 赤星校長	回数については、本校では2時間扱いの5回だが、泳ぐ時間については足りていると思う。学校で水泳をしても着替える時間、移動を考えると正味30分くらいしかないので、それを考えると十分だと思う。コロナの時は、少しでも具合が悪ければ入れなかったで、少し具合が悪ければ2回くらいしか泳げないということもあった。実際休むと泳ぐ回数が少なくなっていくため、今年は6回にしようと流泳館に相談した。希望としては、少しでも事故防止になればということで、夏休み前に実施したいと考え、運動会が終わって6月頭から7月半ばまでということでフルに入れてもらったが、5回が最大になった。夏休み明けならできるとのことだったが、夏休み明けに1回だけになると泳力面では続けてやる方が効果はあると思うので、今年も5回でやることになった。

城北小 石原校長	本校は2年目で本校職員にどうしたいか聞いた。学び合いを中心として授業づくりをするのであれば、学校側が2コマの中をどう組むのかを考えて菊南スイミングスクールと打ち合わせをしないといけない。逆にスキルアップの時間は、スイミングスクールの方がスキルがあるので、その場合、本校職員はT2としてインストラクターにお任せすることになる。そのことを体育部で話し合うように投げかけたところ、回数も限られているので、スキルアップを優先した方がいいということで、昨年通り菊南スイミングスクールの指導を中心に、本校の職員は手伝いながら学ぶという形となった。スキルアップとしては、とても有効だったと感じている。 授業後、児童に「どうだった」と聞くと、「良かった」という児童と「学校の方が良かった」という児童もいた。学年で水泳をすると、指導者が2人（泳げる子のコース1人と苦手な子のコース1人）で授業づくりを考えた場合、真ん中まで泳げるようになることを考えるので、貝拾いや渦巻などを入れ、苦手な子が楽しめる活動を入れる経験がある。現2年生は、菊南スイミングがスタートなのでこれがスタンダードであり、現6年生は水慣れのところの過去の経験があるので、「学校で宝探しをした方が楽しかった。」というような意見があった。ただ、スイミングスクールで泳ぐ経験がどんどん積み重なっていくと、これがスタンダードになるので、また児童の感想も変わってくるのかなと思っている。
吉松小 村上校長	回数について言えば、保護者からは「増やしてほしい。」という声がある。「6回という中で風邪をひいてしまうと…」という声がある。また、今年は9月が非常に暑かったので「9月までは泳がせてほしい。」などあった。「プールサイドのやけどなどの心配がないので安心。」といった好意的な意見が多いが、回数はどうしても少ないといった印象になるのかなと思う。2学期に入っても暑い日があるので、秋口にもう1回できたら嬉しいが、予算のこととかいろいろな問題もあるだろう。吉松は、田底小と学年同士を一緒にしているので、時期については話し合うといいが、2校で1つのスイミングスクールだと、時期をずらしてやるのであれば春がいいとか秋がいいとか必ずしも言えないと思う。 職員は、「インストラクターの指導法を学ぶということでとても勉強になった。」と書いている。「安心して授業が進められて良かったのでぜひ続けてほしい。」ということだった。児童は、「たくさんの先生方に見てもらいコース分けしてもらい、冷たすぎないプールでできたことも嬉しい。」と書いていた。高学年は、「プール掃除をしなくてよかった。」と書いていた。
芳野小 西釜校長	本校は芳野中のプールを使っている。回数と時間の確保については、プールの時間を優先して利用できるように時間割をずらして行っている。1年目の時は天候によるプール中止が非常に話題になった。今年度は、小中学校で話し合い、プール利用開始を1週間早めてみた。予備の日が取れたが、結果的には雨などでプール利用の条件を満たさないことがあり、高学年は9時間授業になった。天候さえうまくいけば10時間程度泳げる。
協会副会長 (E-LAND) 大賀氏	芳野小学校に行ったが、今年は非常に天候に左右された。2年目は1週間早めにスタートしたので9～10コマできたが、次もできるかは状況を見てからになる。ただ、天候に左右されるのはデメリットが多いと感じた。授業自体は10

マリンスイミング かもと 小代 氏	回あればゆったりできるが、派遣する職員にとってはすごく負担が大きくて、3 コマを 10 回行くとするとバランスを見ながら来年はやっていけないといけないと考えている。プールはとても使いやすく、指導は何不自由なくできた と報告を受けているので、デメリットは天候だけだった。 今年で 3 年目になり、慣れてきてスムーズにできている。回数については、この会議で何度も話題に上がっているが、室内プールの利点である予定回数を予定通りにやっているのが一番だと思う。並行して山鹿市で学校に行って指導をする事業をやっていたが、直前まで雨雲レーダーを見ながら「今日はあるのかないのか」とハラハラドキドキしていた。私の子どもも小学生で水泳の授業を楽しみにしているが、「今日あったね。」と聞くと、「いや、なかった。」と言うことが結構あったので、予定回数をちゃんとやっているのが一番だと思う。 単純に 6 回という回数については、上達はすると思うが、それは予算の兼ね合いがある。回数については、実際には 1 回目はオリエンテーション、最終日は泳力調査に取られてしまうので、実質指導できるのは制限がある。時間を長くして回数を減らす場合と、時間を短くして回数を増やす場合があるが、基本的な理屈で言えば反復の方が大事だと思う。長い時間やっても集中力の問題もあるので、各施設の受け入れ状況にもよる。うちは、午前中は通年でいろんな学校を入れることができるが、それは各スクールの事情次第となる。 あと回数について、少ないという意見は逆に言えば「良かったからもうちょっと増やしてほしい」という風にも取れるので、「早く終わってほしい」と思われていないのは評価の一つだと思う。
菊南スイミング 須崎 氏	単純に回数を増やしていく中で、もっと上手になってもらいたいというのもあるし、体育の授業で上半身をしっかり使う運動はそんなにないので、児童の成長にすごくいいものだと思う。回数を増やしてやっていけば体力もつくし、心肺能力も上がっていくので増やしたいが、当クラブの状況との兼ね合いが非常に難しい。 学びの保証については、1 回目と 6 回目は泳力調査なので実質 4 回である。植木小は今年度初めてだったので、1 回目に泳力調査を行ったが、城北小は昨年度の最終の情報があったので、1 回目から練習ができ 5 回しっかり練習することができた。2 年目以降は多少できることは増えていくと思う。
司会	回数については、受け入れ状況や予算、学校規模、児童数などが関係している。なかなか条件がたくさんある中で、可能なところは小学校やクラブの要望を反映させるような形で可能な限りやりたいと考えている。今年度 2 学期初めて水泳の授業を委託する形でスタートした。今後に向けての材料にもなると思うので、実際の状況などを知らせてほしい。
城北小 石原校長	実施時期について、職員に何度か「どうだった。」と尋ねたところ、「1 学期でも構わないし、2 学期でもいい。」という意見だった。2 学期に行うメリットとしては、学級（実態）が把握されているので、児童に指示が出しやすく、夏休みに行事との兼ね合いで予定日程を決めていくので、ばたばたせずに水泳と行事を組み合わせていけたように思う。突然入れ替えると、菊南スイミングさん

	との日程調整等も出てくるが、台風でスタートが遅れたこと以外に特にイレギュラーもなくできた。8月の終わりの2日だけずれたというだけで、あとは割と2学期は計画が立てやすいという面ではいいと思う。今月末までかかったのは5年生が3日間集団宿泊教室に行ったのと、その前後で時間調整が入るので、その間に外は涼しくなったが、室内なので快適にできたと聞いている。
司会	今年度は、植木小学校と城北小学校が4月に話し合いをして時期をずらしたということだが、今後そういう学校が増えてくるのかなと思う。
植木小 出田教頭	植木小はまだ1学期しか実践がないが、ある程度流れが分かってきたので、今後は入れ替えも出てくるのかなと思う。実際それを見越したところで回数なり実施時期などの計画も立てていかないといけないと考えている。
菊南スイミング 須崎 氏	昨年は、城北小学校のスケジュール変更があり、スタッフが結構大変な思いをしたが、今年は何もなかったのが良かった。1学期は実質1か月とちょっとしかできないが、2学期は丸々2か月近く水泳ができるのでいいと思う。気候的に10月後半は少し寒いかもしれないが、体や頭をしっかりと拭いていれば大丈夫なのでとてもやりやすいと感じた。
マリンスイミング かもと 小代 氏	スイミングスクールは室内で、年間を通して同じ環境なので、後は受け入れ体制が整っているかどうかだと思う。
協会副会長 大賀 氏	夏休み期間中、スイミングスクールは忙しいので、2学期にも分散するとゆっくり準備もできるのでスムーズだと思う。
PTA 協議会 赤尾 氏	保護者の立場からは、2学期の水泳授業について、環境が変わらないのはいいと思う。
武蔵小 池田校長	実際よく分からないことが多い。先生方の授業への入り方についてどこまでかわるのか、使用しないプールは何年も放置するのかなど。年配の先生方がどこまで入るのか、それともプールサイドから評価だけでいいのかを知りたい。
城北小 石原校長	炎天下に50歳以上の先生が入るのは難しいが、初任の先生など若い先生には、プールに入ってインストラクターの指導を学ぶように伝えている。コースを分けて指導をしているので、他のグループの評価をしたいときは、インストラクターに伝えて移動するようにしている。プールサイドからしっかり児童たちを見て評価ができるといいと思う。
田底小 益永校長	スイミングスクール（場所）を借りてやっているという考えで、指導は学校の教員がやらなければならない。T1、T2で指導をインストラクターと分けてメリットを生かしてやっている。評価や見取りは教師がやるので、それぞれの良さを生かした指導体制をとっている。
吉松小 村上校長	全小学校でこの事業が行われているわけではないので、人事異動の際のことも考えて基本的にはプールに入っただけの指導を先生方をお願いしている。インストラクターに学ぶ機会なので、教師自身がスキルアップを目指すように伝えている。

城北小 石原校長	使用しないプールについて、本校のプールには金魚とメダカがいる。プールの中に生態系ができていて、金魚やメダカが、虫などを食している。このため、虫の苦情等の相談は今までない。
学校施設課 内村課長	アンケートの結果もそれぞれ高い評価を得ていることから、全市的に今後広がっていくと思う。ただ、夏だけでは経営側としては難しい。仮に通年になった場合、あと何校受け入れができるのだろうか。
協会副会長 大賀 氏	スクールの事情はそれぞれなので全部足並みを揃えるのは難しい。
菊南スイミング 須崎 氏	午前と午後で植木小と城北小を入れ替えた場合、イレギュラーが生じてかなり組むのが大変になってくる。
杉上小 古賀校長	初めて聞く話が多く、それぞれ実践校の話を聞いて、課題はあるがメリットが多いと思った。今年は、熱中症と雨と雷など杉上小もかなり悩まされた。10回くらい予定していたけれど、結局6回くらいしかできなかった学年もあった。暑い時は見学するのも厳しいので、水泳実施について随分考えさせられた。本校は機械の調子が悪く、藻が湧いたりしたので、藻の除去等で先生方が大変苦労されたり、児童もプールの水の色を気にしたりしていた。スイミングスクールで授業ができると、先生方の負担軽減や児童の不安解消にもつながるのではないかと思った。2学期実施になると年間計画の見直しが必要になる。今、北区の学校が中心で他の地区でも広がっていくのかも教えていただければと思った。
熊本大学 坂下教授	ハード面からいうと快適な環境、水温や安全管理など安心感をもって授業に臨めると思う。ただ、説明でもあったように行くまでの時間が課題で、時間確保という面で今後も考えていかなければいけない部分だと思う。ソフト面では、授業として学習指導要領を基に行うものなので、技能・知識に関する面だけでなく、友達と高め合う場面が確保できるようにするなど学習内容に関する打ち合わせが大切だと思う。打ち合わせをしっかりと行い、インストラクターの素晴らしいスキルと学校の授業で大事にしているものをうまく組み合わせると、より効果が高まるのではないかと思う。
田底小 益永校長	先ほど、城北小は生態系が保たれていると言われたが、今後の使われないプールはどのようになっていくかを教えてほしい。
学校施設課 内村課長	基本的に使わないプールについては解体をしていく方向である。今後、いろんな所でもっと広がっていくと思われるので、解体については地域の消防団等には連絡をしないといけないところかなと思うので、そこを通した上で最終的には解体し更地にして、その後は学校が有効活用することを想定している。流れがどうなるか分からない部分もあるので、時間をいただきたい。
指導課 松岡課長	色々ご意見をいただき、今後の方向性を考える上で大変参考になった。植木小の児童が菊南スイミングで学ぶ姿を見せていただいた。グループに分かれて、児童が一生懸命に泳ぎ、さらに専門的な指導を受けていていいなと思った。いろんな所でもっと広げていくべきだという声が実際に上がっており、今後もっと進めていきたいと思った。この事業を見ていて、これが先生と児童にとってとてもメリットになるなと思ったのは、教師がメインで指導する

学校教育部 福田部長	ときに比べて、断然児童の見取りができるというところである。「この間よりうんと長く浮けるようになったね。」などと返せて、評価ができる。そしてそれを受けて児童がやる気になってさらに頑張るというようなサイクルができるのは、とてもよいと思った。事務局からの説明では、プール再編事業を行う条件として「これまではこういう条件で考えていました。」と過去形で話した。今後は、その条件から見直していく。ただ大きな予算もかかわることでもあるため、一つ進めるのに様々な調整があったり試算をしたりと結構時間がかかるので、いきなり全体に広めるのは難しい。まずは、来年度1校からやっていくというように、どのくらいの条件でやっていくのかも検討し、今後可能な限り進めていきたい。はっきりとは答えられないが、方向性としてはそのように考えている。今日はありがとうございました。 プール再編事業も3年目となる。初めての取組で、他県に足を運び状況を把握し、このやり方が熊本市にはいいのではないかといいところから一生懸命やってきた。クラブの皆様のご協力のおかげで大きな成果を得られていることに感謝申し上げたい。アンケートにもたくさんいい結果が上がり、泳力も上がっているということで、児童たちの力になるものと思う。また、植木小の児童から「天国」という言葉をいただき、今後も続いていくといいなと思う。そのためには、事前の打ち合わせが非常に大変だったと思う。それを丁寧に行っていたことがあってこの成果だと思う。特に今、指導内容、評価をどうするか、児童一人一人の状態、そこをしっかりと把握しながらやっていただいていたと聞いている。そういうすべての方のご協力、ご支援によって児童が幸せに水泳授業を楽しんでいるのだと思う。今後、市教委としては、この事業を積極的に進めていきたいと思う。条件等色々と考えていかなくはないし、学校、それからクラブの皆様のご意見をしっかりと聞きながら進めていくので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。
-----------------------	--

6 事務連絡

7 閉会